

# 1. 調査報告概要表

作成日 2007年12月5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2671400196
法人名	社会福祉法人京都南山城会
事業所名	グループホーム山城ぬくもりの里
所在地	〒619-0204 京都府木津川市山城町上狛天竺堂1番地1 (電話) 0774-86-5833

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会
所在地	京都市下京区西木屋町上ノ口上る梅湊町83-1 ひと・まち交流館京都1階
訪問調査日	2007年9月6日(木)

## 【情報提供票より】(平成19年8月23日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	12 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 12.5 人

### (2)建物概要

建物構造	木造
	1階建ての 1階 ~ 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円) ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	1500円			

### (4)利用者の概要(5月23日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	5 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.3 歳	最低	66 歳	最高	96 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	公立山城病院、歯科(柿木、大西、富田)、柳沢診療所
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

旧山城町から要請されて開設された高齢者総合福祉施設のなかのグループホームである。地域医療に積極的に取り組んできた南病院が母体となった法人が開設している。こうした経過のため、地域との連携はなによりも重点的に取り組みたい意向であり、山城町での高齢福祉に関する貢献度は注目に値する。ただ総合施設もグループホームもJR線路をはさんで住宅街とは反対側の山の中腹にあり、坂道でもあるため、住民が日常的に気軽に訪問するには難点となっている。そのため、管理者は情報を収集し、ブルーベリー狩りや近隣ホテルでのコンサート参加などに積極的に参加している。職員が法人のバックアップにより、レベルアップの道が保証されているため、食事、入浴、外出、楽しみ等、毎日の暮らしのケアはよくなされている。家族との協力関係も良好である。今年4月から就任している管理者は地域住民であり、地域の在宅ケアに長年関わってきている経歴もあり、非常に感性が優れているため、今後のグループホームのいっそうの進化が期待できる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前2回の評価により指摘された点のうち、定期的なケア会議の開催、事故報告書の徹底、利用者が地域にでていく取り組み等が、きちんと改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、管理者と主任等がおこない、それにたいして全職員から意見を求めてまとめあげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	木津川市高齢介護課課長、民生委員、家族がメンバーとなり、2カ月に1回開催されている。グループホームからは職員異動や行事報告などをおこなっており、メンバーからの意見としては、職員異動による利用者や家族の不安などが出されている。それについて、不安を解消するような取り組みを説明している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族は家族会への参加、行事への参加等、積極的に関わっている。またグループホームへの意見も建設的に述べており、それに対して適切に対応している。意見としては毎月のたよりが嬉しい、できるだけ外出させてほしい、楽しいゲームをすれば等々、運営に対して積極的な意見がでている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	グループホームの立地からして、なかなか地域住民に來訪してもらうのは難しいので、地域の行事や果物狩りに積極的に出かけている。食材の買い物は毎日、外食は毎月、出かける行事は季節ごとにと、こまめに取り組まれている。施設の行事には地域住民が訪れるので、そこでは交流ができる。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	旧山城町の強い要請によりつくられた高齢者総合福祉施設のなかのグループホームである。京都市内において古くから地域医療に取り組んできた南病院が母体となった法人が開設している。総合パンフレットには「支えあって ほほえみあって 安心して住める町 やましろ」とあり、これが総合的な理念となっている。グループホーム独自の理念は策定されていない。	○	グループホーム一般のあり方を踏まえ、総合的な理念にそったグループホーム独自の理念を、職員の話し合いにより策定することが望まれる。その理念をパンフレット、契約書、重要事項説明書等に明記し、契約時に説明し、理解をはかるとともに、地域住民への啓発をおこなうことが求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設の経過からも導き出されるように、地域との連携が重視されており、またグループホームでの暮らしが認知症の人にとって豊かな暮らしとなるように、この2点は職員に周知徹底され、毎日の業務がおこなわれている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域連携は重点的に取り組まれており、木津川市の七夕祭りに参加したり、中学生の職場体験やボランティアの受け入れをおこなっている。夏祭りに中学生の吹奏楽の演奏を依頼している。管理者が地域住民であるため、情報をキャッチし、蛍狩りやブルーベリー狩り等の地域行事に積極的に参加している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は管理者と主任等がおこない、職員の意見を聴取している。前2回の評価による指摘のなかで、定期的なケア会議の開催、事故報告書の徹底、利用者が地域へ出て行く取り組み等が改善されている。独自の理念の策定、トイレの表示、豊かなアセスメントの実施等が取り組み過程にある。	○	前2回の評価において指摘された点のうち、改善されている点があるものの、理念の策定や契約書への権利・義務の明示、利用者のアセスメントの深まり等がまだ改善過程にあるので、さらに取り組みを進めることが求められる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、民生委員、木津川市高齢介護課課長をメンバーとして運営推進会議が発足しており、2カ月に1回の会議が開催されている。議事録も詳細に残されている。職員異動なども報告されており、家族から活発に意見が出され、対応している。要綱は作られていないので策定することと、地域の区長や利用者本人もメンバーに入ることが期待される。		

京都府:グループホーム山城めぐもりの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	山城町、木津町、精華町が合併し木津川市になったばかりであるため、山城町との連携は密におこなわれていたが、木津川市との連携は現段階ではまだ進んでおらず、共催事業もおこなわれていない。総合施設全体としては、地域に会議室を提供したり、市の事業に人材を派遣したりしている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	『里だより』が毎月発行されており、そのなかにグループホームの利用者の写真、行事報告等が掲載されている。家族にはこの『里だより』と担当職員による手書きのお手紙、個人の写真を送付している。その中に職員異動や金銭報告も記されている。これからはグループホームだけのおたよりを発行したいと意欲的である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が結成されており、家族の参加も多い。そこでは忌憚のない意見が出されており、記録に残されている。毎月のおたよりが嬉しい等の声には励まされている。また外出を望む声やゲーム等、楽しいことをさせてほしい等の意見には、きちんと対応している。家族の意見により、利用者がホームの中と外で靴を履き替えないことになっており、「家」を目指すべきグループホームとしては、違和感が残る。	○	ある家族からの意見により、1つのユニットはホームの内外で利用者が靴を履き替えないことにしている。本来家庭生活の継続を目指しているグループホームとして、いかなるものかと思われる。認知症理解のための家族への啓発とともに、職員間での検討が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	本年5月に法人が小規模多機能型居宅介護支援事業所を立ち上げた関係で、このグループホームからの職員異動が行われている。法人としては職員異動が利用者には及ぼす影響を認識している。管理者は職員の退職対策として、職員に楽しく働いてもらうように、お互いに話し合うことに重点を置いている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はとくに認知症に重点をおいて受講されている。法人内研修も月に1~2回行われ、いずれもレポートが残され、グループホームでの伝達研修も行われている。グループホーム独自の勉強会を毎月おこなっており、テーマは時々の課題をとりあげている。ケアマネジャー資格の勉強会等がおこなわれており、職員には資格取得への支援も十分であり、資格保持者が多い。施設長との個人面談が年2回おこなわれ、職員一人ひとりの課題が設定されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	旧山城町内にはグループホームがなかったこともあり、職員、利用者を含めて、他のグループホームとの交流はおこなわれていない。今年の5月に開設された同法人の小規模多機能型居宅介護支援事業所には、利用者とともに出かけることがある。	○	グループホームの性格上、職員も利用者の閉じこもりが最も懸念される場所であり、行事のひとつとしても、他の法人のグループホームとの気軽な交流に取り組むことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お試し期間の制度があり、利用開始前に利用者や家族に来訪してもらい、雰囲気を知ってもらっている。また利用が始まってからも、なるべく早くなじんでもらうために、好きなことをしてもらったり、好きな食べ物を提供したりしている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を介護される人という位置づけにせず、人生の先輩として教えてもらうことが多い。味噌汁の出しをとるために使った昆布を食べることやさつまいものつるの煮物などは教えてもらってはじめて知った職員が多い。また姑や小姑の苦勞話、戦争の話などを聞いて、共に涙することもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用申込書には家族状況、医療情報、主治医意見書、介護サービス利用情報等々が集められ、記録に残されている。アセスメントは東京センター方式を利用しているが情報はまだまだ少なく、生活歴はほとんどない。しかし、利用にあたっての本人や家族の意向は聴取されている。	○	長い人生を送ってきた利用者から、職員がじっくりと話を聞くことに取り組み、記録に残し、職員間の共有化をするとともに、毎日のケアに生かすことが求められる。
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたっては、東京センター方式によるアセスメントに基づき、担当職員が作成し、管理者であるケアマネジャーと相談して介護計画を確定する。それを毎月のケース会議で検討し、最終決定となる。全職員がその介護計画を確認しているかどうかのサインはない。またケース会議に本人や家族は参加していない。	○	介護計画は利用者の毎日の生活を定めるものであるだけに、ケース会議に本人や家族の参加を求めること、また利用にあたっての本人や家族の意向だけでなく、その人の長い人生の生活歴を聴取し、もっている能力を引き出すような介護計画が作成されることが求められる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは定期的、随時とおこなわれている。見直しにあたっては「行動実施表」によりチェックしているが介護計画にそった内容で記録されていない。見直しのためにはサービス担当者会議において検討している。	○	介護計画の見直しにあたっては、介護計画の評価とともに新たなアセスメントが欠かせない。評価には毎日の支援経過が重要であるが、それが介護計画にそった内容で記載されるとともに、利用者の反応、表情、発言等が大事である。その上でカンファレンスを行い、そこには本人や家族の参加も求め、担当職員とともに介護計画の見直しが行われることが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の元々のかかりつけ医への受診は家族にお願いしているが、家族の都合がつかないときは同行している。ショート利用はまだ利用がない。併設の特養での大きな行事に利用者は参加している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームには町の開業医である内科医が毎月往診してくれている。看護師は併設特養の看護師が毎日来訪してくれるので、職員が相談にのったり、利用者の体調もみている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	総合施設として「重度化対応及び看取り介護指針」が策定されており、利用者と家族の意思を最大限に尊重すること、各職種の役割、介護体制、介護の実施内容等、詳細に決められている。この内容を家族に説明し、家族からは「看取り介護についての同意書」をとっている。職員教育もおこなわれており、不安はあるが、最期まで看たいという職員の熱意と意思統一はできている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護規定が策定され、守っている。職員採用時には守秘義務の誓約書をとっている。トイレ誘導など、毎日の生活でのプライバシーにも職員は注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食8時、10時に体操と水分補給、昼食12時、おやつ15時、夕食6時、消灯10時等、おおよその日課は決まっているが、起床や就寝など、利用者の自由である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は職員が利用者とともに毎日買いにでかけるので、そのときに献立の希望を聞いている。毎月1日はお赤飯に鯛の焼き物と茶碗むしという豪華なものである。お箸、茶碗、湯飲みは利用者の個人のものであり、共用食器は陶器製である。職員も共に食事しながら会話が弾んでいる。おやつも月2回は手作りしている。調理や盛り付け、食器洗いなどは利用者とともに行う。食卓や箸についている名札はその必要性について、職員間での検討が期待される。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	3日に1回の入浴となっているが、希望者は毎日でも入浴できる。また時間帯も夕食後の8時までなら、希望する人には応じている。マンツーマンの介助であり、同性介助の希望者には対応している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、買い物、調理、食卓の台ふき、草むしり、水遣り、客の接待、「いただきます」の声かけ等々の役割が果たされている。またタイル細工、短歌、俳句、絵手紙、書道、梅干つくり、ガーデニング等を楽しんでいる。特養でおこなわれる週3回の喫茶や月1回の居酒屋にも喜んで出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物はこまめに出かけており、買い物時の支払い支援もしている。買い物ついでに喫茶店も利用している。外食は毎月しており、季節ごとには花見、花火見物、紅葉狩り、初詣、遠足等々、出かけている。京阪奈ホテルでのクラシックコンサートに参加し、食事をして帰ってきた楽しい思い出もある。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉も玄関ドアも日中は施錠されておらず、暗くなったら鍵をかけている。居室からウッドデッキへのドアも施錠されておらず、ウッドデッキから外へは簡単な鍵がかけられているが、誰でも開けることができる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画書が作られており、避難訓練も利用者をふくめておこなっている。総合施設として職員による自主防災組織がつくられている。地域との防災協定書、ボランティア協力協定書、備蓄等は整備されていない。	○	総合施設全体として職員の力をフルに利用するという方針があるものの、利用者の多くは自力での移動が困難と考えられるので、地域住民やボランティアの協力が得られるように、ふだんからお願いするとともに、書面を作成しておくことが望まれる。また少なくとも飲み水の備蓄が求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重コントロールの必要な人、水分摂取を注意しなければならない人については、食事摂取量や水分摂取量の記録をとっている。献立のカロリー値は記録されていない。	○	毎日の献立のカロリー計算をし、業務日誌等に記録すること、利用者一人ひとりの食事摂取量と水分摂取量を、現在職員が把握している内容を記録に残すことが望まれる。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると観葉植物の鉢、下駄箱の上に生花、正面に利用者作成のタイル細工がある。廊下の壁には利用者の書道、俳句、絵画の額等が飾られている。居間にも花や観葉植物等があり、雑誌架に雑誌が入れてあり、テーブルには新聞がおいてある。建物もまわりはウッドデッキのテラスになっており、どの部屋からも出ることができる。そこにはベンチや洗濯物干し、花や野菜のプランターなどが置かれている。家庭的であり、緑が豊かに配されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には衣装ケース、衣装掛け、小たんす、ドレッサー、椅子、座布団など、利用者の使い慣れた家具や道具などが持ち込まれている。また夫や息子、娘、孫などの写真や思い出の小物、お土産等をきれいに飾っている人もいる。夫の位牌の前に鉦をおいている人もいる。		